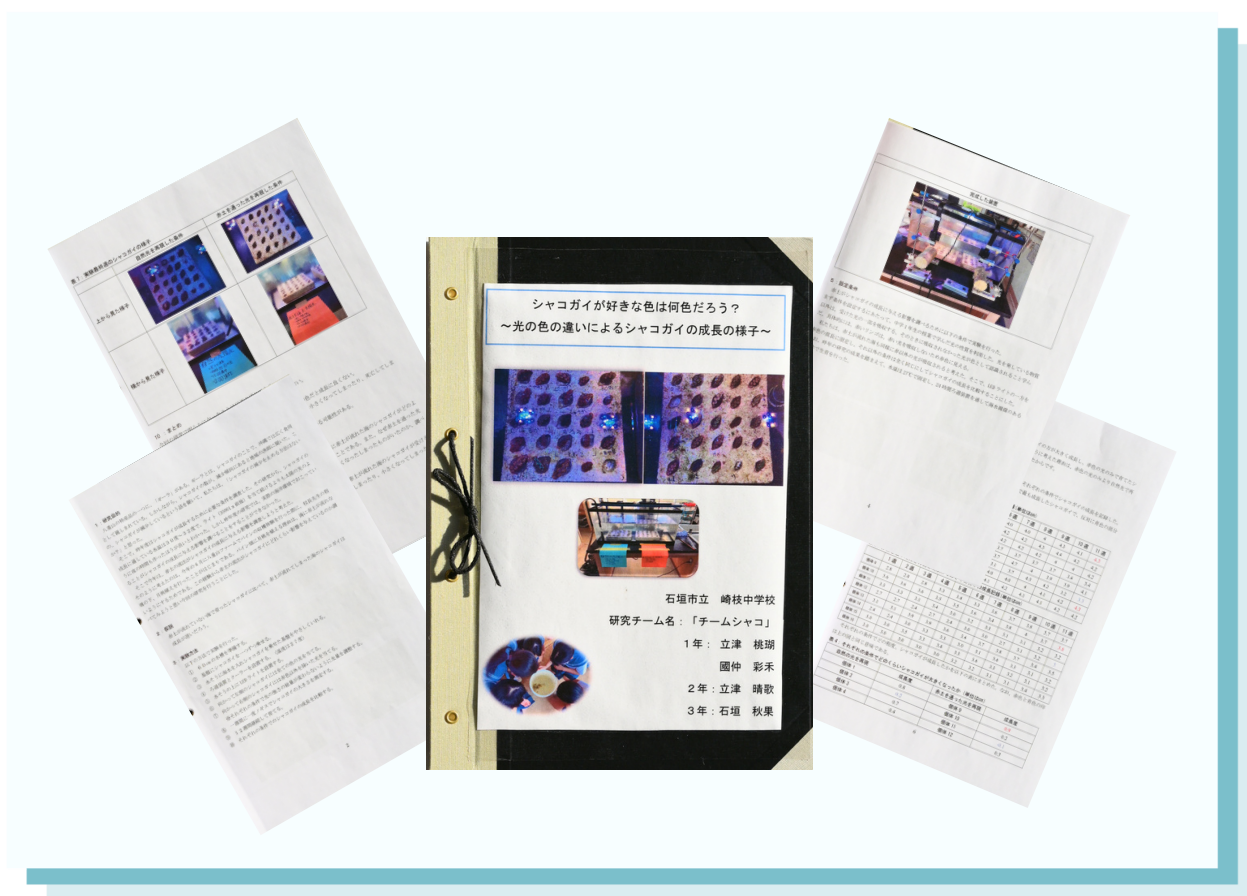


センバス・グループ賞

シャコガイが好きな色は何色だろう？ ～光の色の違いによるシャコガイの成長の様子～

立津 桃瑚 | 沖縄県 石垣市立崎枝中学校 1年
國仲 彩禾 | 沖縄県 石垣市立崎枝中学校 1年
立津 晴歌 | 沖縄県 石垣市立崎枝中学校 2年
石垣 秋果 | 沖縄県 石垣市立崎枝中学校 3年



〈選考理由〉

桃瑚さんを中心に、國仲 彩禾さん(中1)、立津 晴歌さん(中2)、石垣 秋果さん(中3)の四名で形成された「チームシャコ」。「チームシャコ」のメンバーは、沖縄県で広く食用として親しまれているシャコガイの減少傾向を止めるべく、シャコガイが成長するための条件を調査しました。「自然光を再現した条件での記録」と「赤土を通った光を再現した条件での記録」の数値を11週にわたり細かく記録し、シャコガイの成長と光の色の関係が丁寧に考察されています。また、漁師の方にシャコガイについて教えてもらったり、実験装置を貸してもらったりと、地元の方々にご協力いただきながらの研究となっており、地域の暖かさも伝わってくる作品でした。このシャコガイの研究を通して、生き物を管理する大変さを学んだ「チームシャコ」。これからもチーム一丸となり地域の環境を守っていく取り組みを、継続してほしいです。

古民家からもらったもの

浅見 凰花 | 福島県 三島町立三島小学校 5年

〈選考理由〉

この賞は、部門の枠にとらわれず、感動的な作品、特に親子や兄弟の絆や愛・優しさが感じられる作品を対象に毎年選ばせて頂いています。

今回の受賞作品は、浅見凰花さんの「古民家からもらったもの」です。凰花さんは、お父さんが管理を任された古民家に通ううちに、最初はカビ臭くて帰りたいと思っていたのが、次第に居心地がよくなり夏休みの宿題がはかどるまでになりました。お父さんが古民家で400年前に作られた小鼓を打った時には、その鼓と家とが会話をしているように、まるで生きているように感じた様子が綴られています。

この豊かな感性は、お父さんやご家族の方達との日頃の会話があったからこそではないでしょうか。日常の中で親から子へ、また孫へと大切なものが受け継がれていく。だからこそ、ホセ・ムヒカ大統領の『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』に共感を持ったのでしょう。大量生産大量消費がもたらす環境破壊。その証としてのプラスチックロメート。これらのことを、自分ごととして受け止めている姿勢にも感銘を受けました。

最後には、古民家に捨て置いてあった古い椅子を持ち帰って再利用している様子とともに、凰花さん自身も現代人の無責任さで起きた問題を引き受けなければならないと宣言しています。なんと頼もしいこと。2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標SDGsを身近に考えるヒントとなる作品です。

『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』を読んでの感想文です。お父さんの古民家管理の手伝いに始まって、本に描かれている貧しさの現状、その結果、プラスチックのゴミからかつてない新種の岩が出現し環境破壊を招く、現代人の無責任さまで言及しています。見事な展開であり考察です。

また、古民家での気付きを「その鼓の音は、喜んで笑っている様」「古民家もそれに答えて笑っている様」と擬人化して表現しているのにも子どもらしい想像力の豊かさを感じました。

そして「私達の世代は、先人の知恵を引き継ぐけれど、現代人の無責任さで起きた問題も引き受けなければなりません。

本当の豊かさとは、心の持ち方なのかもしれません。」と締めくくっています。読書体験を通して、地球の未来を考える上で重要な課題に目を向ける骨太な姿勢に、我々大人こそが襟を正して向き合わねばならないと思い至りました。

凰花さんのように、新たな体験や本との出会いをきっかけに、自分の頭で考えて自分の言葉で表現する、そんな子ども達が増えてくれることを望みます。